

第22回デジタル臨時行政調査会作業部会

住所・所在地に関する課題解決に向けたベース・レジストリへの期待

2023年 7月 26日
ヤマト運輸株式会社

ヤマト運輸

当社における住所・所在地に関する課題

■ 物流業界の課題

2024年問題

- 住所・所在地に関する課題
- ① 「住所表記のゆれ・不備」起因
 - ② 「住居番号付番」起因
(同一住所に複数物件が存在)

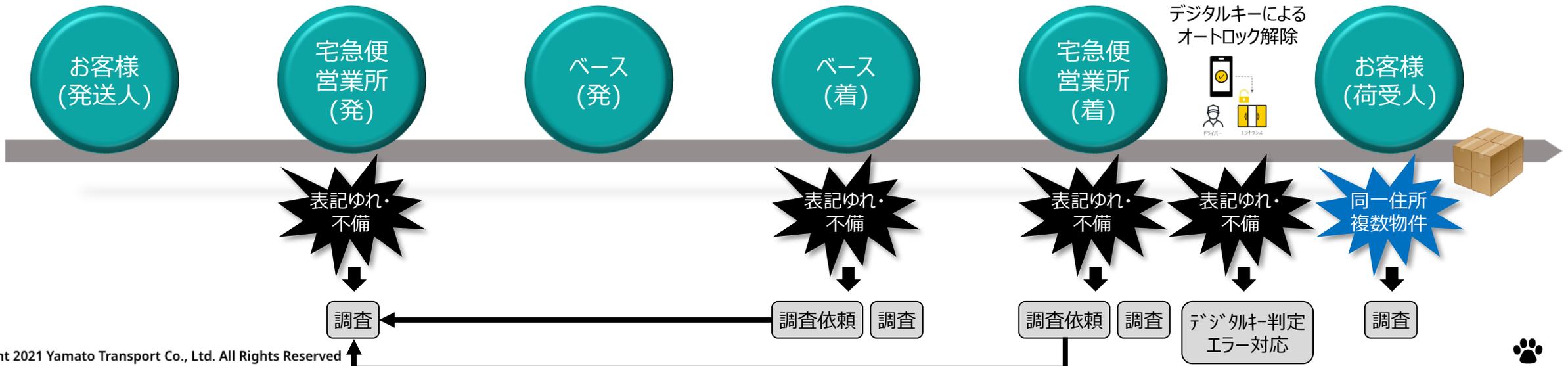
深刻化を誘因

調査業務発生！

デジタルキー対象
判定エラー！

配送業務への
深刻な影響

(荷物の動きと問題発覚ポイント)



住所・所在地に関する課題解決に向けたベース・レジストリへの期待

- 住所・所在地に関する課題解決のために、当社では配送情報を『不動産ID』へ変換することによる、配送効率向上の検討を進めております。
- その上で、ベース・レジストリに期待する整備内容としましては、下記が挙げられます。

(注) 当社が利用を想定しているのは、「建物」に関する『不動産ID』の情報でございます。

■ 課題解決に向けた検討内容（案）： 配送伝票の配送先情報を「住所」から「不動産ID」へ

施策

(AsIs) 住所記載の配送伝票



(ToBe) 不動産IDと連携した住所レス配送伝票



期待効果

- ✓ 調査業務発生件数の激減
- ✓ デジタルキー対象判定エラー率の飛躍的改善

■ ベース・レジストリとして整備いただきたい内容

#	カテゴリ	内容	理由
1	レベル	地理識別子構造上の全レイヤーの整備	配送時に必要となる住所・所在地情報は、部屋レベルまでの情報です ※ 仮に、部屋レベルまでの整備が難しい場合、配送先を一意に特定するためには、伝票情報等から情報を補完する必要が生じる可能性があり、一定数の調査業務が残ることが懸念されます。さらに、自動配送に関しても、不動産IDで配送先を一意に特定出来なくなる可能性が懸念されます。 ※ 仮に、建物レベルまで整備頂ける場合は、デジタルキー対象判定エラーが0になる可能性があります。
2	データ項目	住所・所在地情報に関する文字情報	<ul style="list-style-type: none"> 人間が配送を行なう際は、これまでのナレッジを活かせる正規化された「文字情報」が整備されていることが望まれます。 同一住所に複数物件が存在するケースも、何らかの形で建物を一意に特定できるような整備を期待します。
3	データ項目	住所・所在地情報に関する位置情報	将来的に自動配送が普及する場合、「位置情報」を活用した配送の検討可能性があります